

日本の青空

試写会（3/15）を観て
寄せられた感想文の一部です

6月21日（土）黒部市・コラーレ PM 1:30 開場 PM 2:00 上映
6月22日（日）魚津市・新川文化ホール PM 1:30 開場 PM 2:00 上映
入場料 おとな 1,500円（前売券 1,000円）
こども（小中高） 無料招待券があります

「日本の青空」新川上映実行委員会

連絡先 魚津：24-5301（福井） 黒部：52-4317（平井） 入善：090-8969-5300（大田）

後援：富山県・魚津市教育委員会・黒部市教育委員会・北日本新聞社・みらーれテレビ

良い憲法（特に9条）だけれど、アメリカの押し付けなのだと思っていました。日本の国民のもう戦争はしないという決意や、もっと人間らしく生きたいという想いがいっぱい詰まった憲法だったのですね。大切にしたいと思いました。



前半、あまり面白くなかったが、途中連合軍とのやりとりするあたりから話の展開がよくなる。また「母ベえ」よりも話に内容があり良かった。現憲法が日本人の試案を大いに参考にしたというのは知らなかった。

戦争を体験している私は、70歳を越えた者ですが、この年になって日本国憲法がこの様にして作られたと初めて知りました。



六十年前の懐かしい映像を拝見しました。憲法（明治）が改められ、今の憲法ができた。六十年間戦争に巻き込まれず平和を楽しまれたのも、その賜物です。日本は国家の危機を何度も昔から乗り越えてきた運のよい国です。明治時代も、植民地にもならず奇跡的な国です。今の憲法も、一方的に政府が決めないで、民間人とアメリカとの考えを平均的に作られた大変よい憲法だと思う。あの混乱期によくこの様な人達がいらっしやっただと思いました。アメリカだけが決めたものでなく、立派な日本人も多くいてできたものでした。そこが他の国々と違う、平和を愛し中庸を守るのが日本のよい所だと思う。

あの時代にGHQのラウエル中佐が米国で鈴木安蔵の論文を読んだというのは、驚きでした。その後、作家井上ひさしさんの著書を読み、当時のGHQ民政局には、米国でも特別に優秀な若く理想に燃えた弁護士さん達がいて、憲法作成に関わったという事実を知り、感動しました。



思っていたより見やすい映画だった。より多くの皆さんには見てもらいやすい内容だった。若い女性ジャーナリストを通しての映画で、良いと思った。

高校、大学の授業に必修教材ぐらいの気持ちでこの映画を見せてもらえたらと思いました。6月の映写会には、若い人をいかに集められるかが課題ですね。

とても知的な映画でした。日本国憲法はこうしてでき上がったんだよという過程がよくわかりました。憲法研究会のメンバーの鈴木安蔵さんは、治安維持法適用第1号で検挙されました。その後もあわせて5年5ヶ月も獄中にありました。奥さんは夫を支え、子育てや家事をしながらロシア語を独学しておられる様子でしたね。獄中で研究してきたものが日の目を見る夫妻の喜びはどんなだったでしょう。憲法には戦争はもう絶対いやだという思い、男女平等へのうずくような願いが込められているのが伝わってきました

日本国憲法はGHQだけで作成したのではなく、日本の憲法学者が深くかかわっていたものと知り、深い感銘を受けた。主権在民、男女平等、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利等、民主的で崇高な精神を盛り込んであることに感動しました。第24条のベアテ・シロタさんのあの場面では涙が出ました。特に女としての立場から！！

暗い気持ちで見始めた私だけど、いつのまにか見入っていた。当たり前のように考えていたこと、知っていたつもりの憲法のこと、でも実はよくわかっていなかったことが心に沁みてきた。友にも話そう！主人にも！



学校では決して教えられない、現日本国憲法の草案について初めて知ることができ、大変感激しました。学生の年代の人たちに、この映画を見てもらいたいと思います。

ふつう憲法と向き合うなんてことは、学校の社会の時間でしか考えられないが、この映画で考えさせられた。あの大きな犠牲をともなった敗戦の中で、戦争は二度とやっちはいけない。国民が主権者、男女平等など人権の尊重の理念のもとに、日本人自身の手でつくられた憲法草案が、現憲法の土台になっていることを知った。やはり驚きだった。平和や人権が危なくなっている今だからこそ、この憲法を生かし現実をよく知っていかなければならない。そして世界に向けて行かねばと思う。多くの人々に観て、考えてほしいと思った。